

## 令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・新体カテストの全身持久力に焦点を当て、縄跳びの活動に昨年度から継続して取り組んでいるが、種目や跳躍時間を工夫することで意欲的な取組が見られている。
- ・感染症対策をとり、安全面を最優先しながら、できる限り多くの単元に取り組んだ結果、具体的な目標をもち、主体的に活動に取り組む生徒が多く見られた。
- ・学習カードの記入項目を「思考・判断・表現」と、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を明確にしたことで、具体的な記入が増えた。

#### (2) 課題

- ・縄跳びの活動の成果を見守るとともに、苦手な種目（跳び方）を作らないよう、生徒同士で学び合う時間を作るなど、達成感を得られる活動としていく必要がある。
- ・引き続き、運動能力や運動意欲の二極化が見られる。コロナ禍で運動機会や運動量の低下が懸念され、より運動意欲が高まる生徒と、より運動から疎遠になる生徒が見られた。
- ・学習カードの充実を今後も図っていくとともに、文字による表現が苦手な生徒のために、教員からの端的で具体的な声かけ（アドバイス）を継続し、ICT機器の活用も模索する。

### (2) 分析（観点別）

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能の高い生徒がいる。運動部に所属する生徒も多い。体育分野や保健分野を言語でまとめるところに課題がある。	理解が進んでいないため、動きのねらいやアドバイスのポイントを考え、表現することが難しい。	元気があり、意欲的で主体的に学ぶことができる生徒も多いが、メリハリをつけるところに課題がある。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に体力の基準は高くなく、特に持久力に課題をかかえる生徒が目立つ。運動機会の減少が原因と考えられ、運動に関わらないためか、運動に関する知識も少ない生徒がいる。	話し合いやアドバイスなど、課題に対する工夫について思考し、表現することに苦手意識をもっている生徒が見られる。一つ一つの行動を認め、自尊感情を高めていく必要がある。	運動を好み、主体的に学習に取り組むことができる生徒が多い。授業ごとの課題やテーマを明確にすることでより主体的な取組につなげていきたい。

#### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
柔軟性や投げる力に課題がある。技能の高い生徒と運動に対する苦手意識をもち、技能を發揮できない生徒の二極化が見られる。知識は高い生徒が多い。	指示やアドバイスを明確にし、グループワークの場を多く設けることで、思考や判断の能力を高めることができている。	進路に関連づけ、主体的に学ぼうとする生徒が多く見られるようになった。男女共習のメリットを生かし、より学び合う場につながるような工夫が必要である。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体を動かす時間を多く確保するとともに、多くの分野に携わり、様々な技能を習得できるよう促す。また、運動の特性や体の使い方、運動の意義について知る機会を設ける。	各分野の運動のねらいを明確にし、より具体的に課題を投げかけ、一人一人が考えて体を動かす機会を作る。 学習カードの記入内容を充実させることにも、今後も留意し、細かな声かけを続ける。	安全に留意し、安心して学習に取り組む習慣を身につけるよう促す。また、ねらいを意識してできている活動を認めて、自尊感情を高めることで、運動の楽しさに気づかせ、更なる意欲につなげていく。グループワークの時間を設け、他者を意識して運動に取り組み、認め合うような流れを構築する。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業毎のねらいを明確にし、運動の特性や体の使い方、運動の意義に関する知識を身につける。多くの分野に取り組むことで、様々な運動技能の習得を目指す。 体づくり運動で始めた縄跳びに継続して取り組む。	グループワークに取り組むことで、課題を解決するきっかけを作る。その際に ICT 機器を活用することで、気づきを促す。生徒一人一人に合った、的確な目標設定をすることと、表現できたことを正しく評価する。	運動の楽しさや喜びを得たところから、新たな課題設定をし、スモールステップを踏む中で、意欲的で、主体的な学びにつなげていく。その際の的確な声かけ、アドバイスを大切にす。またグループワークの時間を設定し、互いの動作への関心を膨らませる機会を作る。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グループ活動の時間を確保し、学び合う中で、気づきの場を増やし、全体的に技能を高めしていく。 学習カードで授業のねらいを明確にすることで、知識を深めていくよう促す。	自己の能力に適した運動課題の解決に向けて、協力して活動の仕方を考え、工夫して実践させる。思考や判断を深めるために、互いに学び合うほか、学習カードを今後も充実させ、ICT 機器も活用し、ねらいを明確にし、振り返りの時間も大切にす。	り高度な技術やチーム戦術に触れ、これまで以上に運動の楽しさや喜びを得られるようにする。また、適切な課題設定をし、達成感から自尊感情を高め、学習意欲につなげていく。